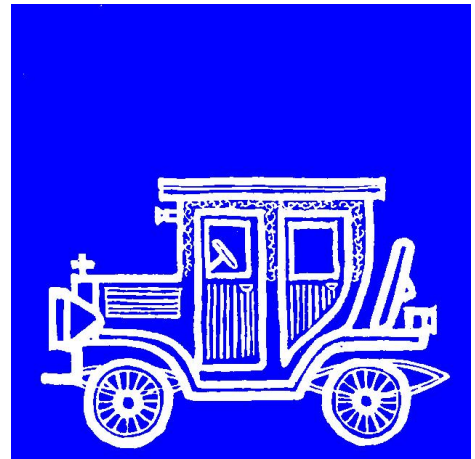


春山自動車工業株式会社 環境経営レポート



 *Haruyama Motors, Ltd.*

E-mail front@haruyama-motors.com

URL <http://www.haruyama-motors.com>

私たちは、地域と地球の
環境に配慮した事業者です



®環境省

エコアクション21
認証番号0004809

2024年8月30日

対象期間：2023年6月～2024年5月

■春山自動車工業株式会社

代表取締役 春山 豊史

春山自動車工業株式会社 環境経営レポート

環境経営方針

企業理念

1. 全ての人と物と事とに感謝すべし。
2. 仕事を通し社会に役立つことに誇りを持つべし。
3. お客様を大切にし 優れた技術を以って全てに行き届くべし。
4. 明るく楽しく仲良く働き 他人に迷惑をかけるべからず。
5. 力を合わせ助け合い 立派な仕事をやり抜くべし。
6. 常に全ての人の幸せを願い 仕事に邁進すべし。

環境理念

環境問題は、自動車整備・販売に携わる事業者として最重要課題です。事業活動の全てを通じて、環境汚染防止に努め、限りある資源を有効に利用し、循環型社会構築の一助となる企業として社会に貢献します。

環境行動方針

当社は、環境理念に基づき「地球環境を守ろう」をスローガンに、環境との共生・調和を最重要課題として認識し、自ら責任を持ち全従業員をあげて環境負荷の低減に配慮した活動に取り組みます。そのために、以下の「環境行動方針」を定めます。

- (1) 二酸化炭素排出量・削減の推進（自社における削減）
事業所内の整理・整頓・清潔・清掃の4S活動に留意し、事業活動に於ける電力・ガソリン・軽油・灯油などの削減による二酸化炭素排出量の低減に努めます。また社用車におけるエコドライブの実践やエコ整備（環境汚染防止整備）の普及・拡大を継続的に推進します。
- (2) 廃棄物排出量・削減の推進
事業所から出る廃棄物を最小限にする努力をします。そのために、分別処理を推進します。
- (3) 総排水量・削減の推進
事業所内で使用する使用水量の削減により、総排水量の削減に努めます。
- (4) エコ整備・エコ車検の推進（お客様における二酸化炭素の削減）
自動車における燃費の向上による削減や、有害な排出ガスの削減を目指す、エコ整備（環境汚染防止整備）を強力に推進します。そのために、エコ整備の有用性についての説明技術やエコ整備技術の向上に努めます。グリーン購入法「特定調達品目」のエンジン洗浄を実施します。
- (5) リサイクル活動による省資源化の推進
省資源のために、リサイクル自動車部品の使用を積極的に推進します。
- (6) P R T R対象の化学物質の使用量・削減の推進
事業所内で使用するP R T R対象の化学物質を含む製品を管理し、使用量の削減に努めます。
- (7) 環境関連法規制等の遵守
環境関連法規制等を遵守することを誓約します。

2012年6月29日策定

2022年8月29日改定

春山自動車工業株式会社

代表取締役 春山 豊史

◆事業の概要

(1) 事業者名

春山自動車工業株式会社

代表取締役 春山 豊史

(2) 所在地

〒376-0006

群馬県桐生市新宿3丁目2番10号

(3) 認証登録の対象範囲

春山自動車工業 株式会社の全組織・全活動

(4) 環境保全関係の担当者連絡先

環境管理責任者 新井 且広

担当者 新井 且広

連絡先 電話： 0277-44-8082

FAX： 0277-44-6621

(5) 事業規模

社員数 8名

社屋床面積 1,288.48 m²

(6) 事業内容

自動車整備、特装車車体製作架装、自動車・自動車部品・用品販売及び各種保険取扱業務

◆エコアクション21、責任体制・実施体制・役割

責任体制

代表者	春山 豊史（代表取締役）
環境管理責任者	新井 且広（工場長）
E A 2 1 事務局責任者	春山 まゆみ
整備部門責任者	大野 敏之
鈑金塗装部門責任者	鈴木 滋年
業務部門責任者	春山 まゆみ

代表者：春山 豊史（代表取締役）

1. 環境管理責任者の任命
2. 環境方針の制定
3. エコアクション21全体の評価と見直しの実施
4. 環境経営システムの実施および管理に必要な資源の準備
5. 社内情報の外部公開可否決定

環境管理責任者：新井 且広（工場長）

1. 環境経営システムの確立、実施および維持するための処置
2. 代表者に対し、環境経営システムの有効性、取組状況の報告
3. 推進機関であるE A 2 1事務局の責任者として事務局運営
4. 必要な教育・訓練の計画・実施

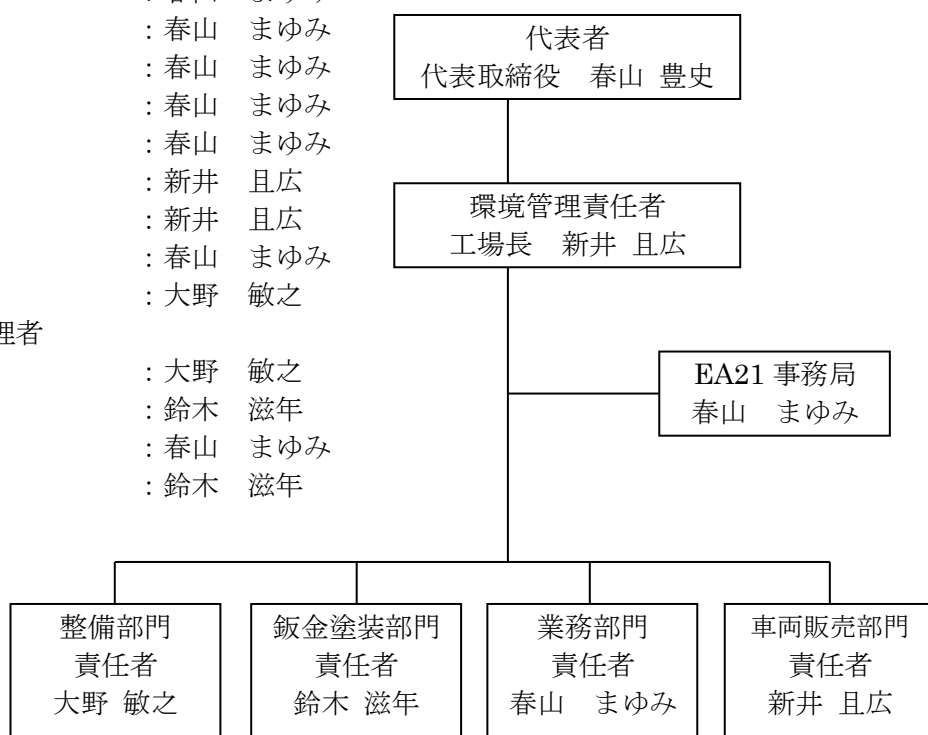
E A 2 1 事務局員：春山 まゆみ

1. 環境管理責任者を補佐し、従業員の全員参画によるE A 2 1の運営改善を推進する。
2. E A 2 1関連文書・記録の作成、改廃、伝達の業務を推進する。
3. 毎月の環境負荷データを整理し、従業員に発表出来るように準備する。

各項目の責任者：

- | | |
|--------------------|---------|
| 1) 電力使用量管理者 | ：春山 まゆみ |
| 2) 灯油使用量管理者 | ：春山 まゆみ |
| 3) L P ガス使用量管理者 | ：春山 まゆみ |
| 4) ガソリン使用量管理者 | ：春山 まゆみ |
| 5) 軽油使用量管理者 | ：春山 まゆみ |
| 6) 産業廃棄物管理者 | ：新井 且広 |
| 7) 一般廃棄物管理者 | ：新井 且広 |
| 8) 水使用量管理者 | ：春山 まゆみ |
| 9) エコ整備管理者 | ：大野 敏之 |
| 1 0) 自動車リサイクル部品管理者 | |
| ・整備部門 | ：大野 敏之 |
| ・鈑金塗装部門 | ：鈴木 滋年 |
| 1 1) 紙使用量管理者 | ：春山 まゆみ |
| 1 2) 化学物質使用量管理者 | ：鈴木 滋年 |

EA21 実施体制



◆環境経営目標とその実績

当社における２０１９～２０２１年度の環境負荷実績を把握し、２０２２年度目標をその実績の平均値とし、２０２３～２０２５年度は下記の通り定め活動する。

（年度例、２０２３年度：２０２３年６月～２０２４年５月）

環境目標	２０２２年度		２０２３年度		２０２４年度		２０２５年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
① 二酸化炭素 排出量の削減	直近３期 2019 ～2021 の実績 平均値 kg 8,257.88	9,443.23	2022 年度の 実績に対して 1 %の削減 9,348.80	11.832% 削減 8,242.66	2022 年度の 実績に対して 2 %の削減 9,254.37		2022 年度の 実績に対して 3 %の削減 9,159.94	
	直近３期 2019 ～2021 の原単 位平均値 (kg ／売上 100 万 円) 100.15	122.43		116.09				
② 廃棄物排出 量の削減	直近３期 2019 ～2021 の実績 平均値 t 7.559	9.396	2022 年度の 実績に対して 1 %の削減 9.302	19.351% 削減 7.502	2022 年度の 実績に対して 2 %の削減 9.208		2022 年度の 実績に対して 3 %の削減 9.114	
	直近３期 2019 ～2021 の原単 位平均値 (kg ／売上 100 万 円) 91.67	121.82		105.661				
③ 水使用量の 削減	直近３期 2019 ～2021 の実績 平均値 m ³ 155.67	145.00	2022 年度の 実績に対して 1 %の削減 143.55	34.448% 増加 193.00	2022 年度の 実績に対して 2 %の削減 142.10		2022 年度の 実績に対して 3 %の削減 140.65	
	直近３期 2019 ～2021 の原単 位平均値 (m ³ ／売上 100 万 円) 1.89	1.88		2.72				
④ エコ整備	直近３期 2019 ～2021 の実績 平均値 台 68	86	2022 年度の 実績に対して 年 10%の増加 95	3.158% 増加 98	2023 年度の 実績に対して 年 10%の増加		2024 年度の 実績に対して 年 10%の増加	
⑤ (エンジン 洗浄)	直近３期 2019 ～2021 の実績 平均値 台 1	0	2022 年度の 実績に対して 年 10%の増加 1	0	2023 年度の 実績に対して 年 10%の増加		2024 年度の 実績に対して 年 10%の増加	
⑥ 自動車リサ イクル部品	新品とリサイクル部品の価格差を示し、お客様の選択に任せる。 目標は決めないが普及の活動は行う。							

購入電力の二酸化炭素排出係数は

２０１９年度	〃	出光グリーンパワー	0.000 (kg-CO ₂ ／KWh)
２０２０年度	〃	出光グリーンパワー	0.000 (kg-CO ₂ ／KWh)
２０２１年度	〃	出光グリーンパワー	0.000 (kg-CO ₂ ／KWh)
２０２２年度	〃	出光グリーンパワー	0.000 (kg-CO ₂ ／KWh)
２０２３年度	〃	出光グリーンパワー	0.000 (kg-CO ₂ ／KWh)

エコ整備とエンジン洗浄に対しては、前年度の実績台数の１０％増とする。

但し、エコ整備については増加：達成、減少：未達成とする。

・整理・整頓・清掃・清潔（４Ｓ）の推進については、まず１Ｓ（整理）から始める。順次取り組み進める。

◆主要な環境経営計画の内容 ()内は推進担当者

(1) 数値目標を達成するための取組

1) 二酸化炭素排出量の削減

a) 電力の削減 : (春山 まゆみ)

- ① 室内エアコンは、夏 **28℃**、冬は **20℃**を原則とする。
- ② 買い替え時には、省エネタイプの機器を導入する。
- ③ 昼休みの照明消灯による節電、未使用時の消灯、パソコンは極力待機電力とする。
- ④ [節電]ステッカーを貼り、節電意識の徹底を図る。

b) 灯油の削減 : (春山 まゆみ)

- ① 冬季の暖房用灯油は、室内温度により調整し、室温に応じて消火する。

c) ガソリンの削減 : (春山 まゆみ)

- ① 社用車の省エネ運転の推進
整備車両の引取り、納車時のエコドライブの徹底。
- ② 社用車の定期的整備の実施、燃料効率の悪化防止に努め、効率の向上を図る。
- ③ 社用車に省燃費に有効なエコ整備・エコ車検・エンジン洗浄を実施する。

d) 軽油の削減 : (春山 まゆみ)

- ① ディーゼルエンジンの社用車のエコドライブの徹底。
- ② 社用車の定期的整備の実施、燃料効率の悪化防止に努め、効率の向上を図る。
- ③ 社用車に省燃費に有効なエコ整備・エコ車検・エンジン洗浄を実施する。

2) 廃棄物排出量の削減 : 整備部門 (大野 敏之) 鈑金塗装部門 (鈴木 滋年)

分別を徹底する。再利用・再生利用の比率を上げ、削減に努める。

- ① 一般廃棄物 : 新聞紙はフロアーマットや塗装のマスキングに再使用する。
- ② 産業廃棄物 : 金属クズ、廃プラスチック、廃バッテリー、廃タイヤ、廃油の分別・再生利用化・熱回収化・資源化 (新井 且広)
- ③ 裏紙の使用

3) 水使用量 (節水の取組) : (春山 まゆみ)

- ① トイレ排水の削減に努める。水量の調整。
- ② こまめに節水に努める。洗車時に流しっ放しで洗浄しない。
- ③ 節水を促すための啓蒙表示をする。

4) エコ整備の推進 : (新井 且広)

- ① 説明用パンフレットを準備する。
- ② お客様にエコ整備の燃焼改善による二酸化炭素削減の説明と普及を図る。
- ③ グリーン購入法特定調達品目、エンジン洗浄の実践と普及を図る。

5) 自動車リサイクル部品・使用の推進 : 整備部門 (大野 敏之)

: 鈑金塗装部門 (鈴木 滋年)

- ① 部品見積りの時に新品とリサイクル部品の価格差を示す。

6) 整理・整頓・清掃・清潔 (4S) の推進 : (春山 まゆみ)

- ① まず整理 (1S)、「要らないものを捨てること」から始める。その結果、スペースが空く。反面、廃棄物が増加しても当面はやむを得ない。

7) グリーン購入の推進：(春山 まゆみ)

- ① 事務用品、事務用機器について環境配慮型商品の使用を推進する。

8) 化学物質の管理（鈴木 滋年）

- ① SDS の入手及び保管
- ② 使用量の把握と削減の推進

9) その他：(新井 且広)

- ① その他、環境に関する情報の収集。

(2) その他の取り組み事項（新井 且広）

- ① 社員の環境への意識高揚のために、定期的な研修会や会議を行う。
環境への取り組みを当社社員心得に明記し、朝礼時唱和することにより意識の顕在化を図る。
- ② 始業前、周辺道路の毎日実施している清掃を継続する。

◆ 1 年間の運用の結果と評価

(1) 目標と結果

2023年度（2023年6月～2024年5月）の結果

1 年間		2022年度 の実績値	単年度 の目標値 前年度実績値1%削減	2023年度 の実績値	評価
【二酸化炭素】	k g-CO ₂	9,443.23	9,348.80	8,242.66	減
	原単位 (kg/売上100万円)	122.64	—	116.09	
	削減率 (%)	—	—	-11.83%	
・ 電力	KW h	17,946.00	17766.54	16,323.00	減
	原単位 (KWh/売上100万円)	233.06	—	229.90	
	削減率 (%)	—	—	-8.13%	
・ ガソリン	リットル	3,693.71	3,656.77	3,266.43	減
	原単位 (リットル/売上100万円)	47.97	—	46.01	
	削減率 (%)	—	—	-10.67%	
・ 軽油	リットル	192.73	190.80	212.00	増
	原単位 (リットル/売上100万円)	2.50	—	2.99	
	削減率 (%)	—	—	11.11%	
・ 灯油	リットル	116.00	114.84	0.00	減
	原単位 (リットル/売上100万円)	1.51	—	0.00	
	削減率 (%)	—	—	0.00%	
【廃棄物排出量】	トン	9.396	9.302	7.502	減
	原単位 (kg/売上100万円)	122.03	—	105.66	
	削減率 (%)	—	—	-19.35%	
・ 一般廃棄物	トン	1.120	1.109	0.455	減
	原単位 (kg/売上100万円)	14.55	—	6.41	
	削減率 (%)	—	—	-58.97%	
・ 産業廃棄物	トン	8.276	8.193	7.047	減
	原単位 (kg/売上100万円)	107.48	—	99.25	
	削減率 (%)	—	—	-13.99%	
【水使用量】	m ³	145.00	143.55	193.0	増
	原単位 (m ³ /売上100万円)	1.88	—	2.72	
	削減率 (%)	—	—	32.60%	
【エコ整備】	台	86	95	98	増
(エンジン洗浄)	(台)	0	0	0	—

注1) 評価は、減：達成 増：未達である。（但し、エコ整備については増：達成、減：未達）

注2) 目標値は、前年度に対して1%減である。

注3) 電力の排出係数は、出光グリーンパワー 0.000 (kg-CO₂/KWh) 2022年度実績

注4) エコ整備とエンジン洗浄に対しては、前年度の実績台数の10%増とする。

注5) グリーン購入に付いては、決められた対象商品を購入している。

【P R T R対象の化学物質名】	2021 年度 実績値 (kg)	2022 年度 実績値 (kg)	2023 年度 目標値 (kg) 前年度実績値 1 %削減	2023 年度 実績値 (kg)	削減率 (%)	評価
80 キシレン	31.651	12.981	12.851	17.686	37.6	増
300 トルエン	164.466	127.094	125.823	128.573	2.2	増
53 エチルベンゼン	19.925	6.368	6.304	4.467	29.1	減
296 1, 2, 4-トリメチルベンゼン	3.539	0.368	0.364	0.000	—	減
297 1, 3, 5-トリメチルベンゼン	1.052	0.159	0.157	0.000	—	減
392 ノルマル-ヘキサン	0.000	0.744	0.737	0.000	—	減
355 フタル酸ビス (2-エチルヘキシル)	0.009	0.009	0.009	0.000	—	減
354 フタル酸ジ-ノルマル-ブチル	0.969	0.969	0.959	0.959	0.0	減
448 メチレンビス (4, 1-フェニレン) =ジイソシアネート	0.000	0.002	0.002	0.000	—	減
240 スチレン	1.184	2.686	2.659	0.592	77.7	減
88 クロム酸亜鉛	1.678	0.180	0.178	0.179	0.6	増
305 硫酸鉛 (2)	0.102	0.000	0.000	0.000	—	減
88 六価クロム	0.302	0.052	0.051	0.051	0.0	減
305 鉛	0.976	0.000	0.000	0.000	—	減
239 ジブチル錫ジラウレート	0.004	0.000	0.000	0.000	—	減
302 ナフタレン	0.292	0.011	0.011	0.000	—	減
186 ジクロロメタン	0.000	0.000	0.000	0.000	—	減
356 フタル酸ノルマル-ブチル=ベンジル	0.000	0.000	0.000	0.000	—	減
737 メチルイソブチルケトン	0.000	0.098	0.097	0.000	—	減
629 シクロヘキサン	0.000	3.360	3.326	0.000	—	減
207 ジブチルヒドロキシトルエン	0.000	0.098	0.097	0.000	—	減
87 クロム及び3価クロム化合物	0.000	0.888	0.879	0.000	—	減
総使用量 (上記合計)	226.142	156.067	154.506	152.508	1.3	減

※弊社で特装車両の塗装に使用する塗料、有機溶剤等に含有されている化学物質は、それを含む製品が多岐に渡るため、また1製品に複数の化学物質を含有することも多々あるため、化学物質毎に管理することとする。

※前年度実績値の1%減を当年度の目標値とし、化学物質毎及び総使用量について削減を目指す。

※管理対象の化学物質は前回と同様である。

(2) 活動の評価と取組、次年度の取組内容

① 二酸化炭素排出量

2023年度二酸化炭素排出量の目標値に対し、2023年度の実績値は **11.83%**の削減だった。

削減の主な要因は、ガソリン使用量に関しては、目標値に対し **10.67%**の減少となった。又、軽油使用量に関しては、**11.11%**の増加になってしまった。今後も代車の燃料量の管理を徹底すると共に、エコドライブの実践をお客様及び社員に対してより強く啓蒙していきたい。

電力消費量については、今年度も目標値に対し **8.13%**の削減が出来た。室内エアコンの設定温度については、夏 **28℃**、冬 **20℃**を原則とし、お客様が不在の時は夏 **30℃**、冬 **18℃**で管理し、また年間を通じてエアコンの稼働時間の管理を引き続き徹底していきたいと思う。今後も、お客様に夏冬の省エネ温度設定にご理解とご協力をいただくとともに、社員室のエアコンの稼働時間の管理を徹底していく。また、昼休みや帰社時の照明消灯、出来る箇所での間引き照明の継続、事務所や工場内のLED蛍光灯への段階的変更、業務時間内で使用していないパソコンの電源管理を実施していくと共に、今後も更なる節電の強化を社員一同で強く実践していきたい。

灯油に関しては、今年度は、灯油を購入しておらず、目標値に対して、実績値が **0.00%**だった。今後も、冬場の灯油ストーブの使用管理やスチーム洗車の温度管理を今後徹底したいと思う。

② 廃棄物排出量

今年度は目標値に対し、**19.35%**の削減が出来た。一般廃棄物に関しては **58.97%**の削減が出来た。産業廃棄物に関しても、目標値に対し **13.99%**の削減が出来た。今後もより一層工場内外清掃を行い、一般廃棄物及び産業廃棄物の削減に努めていきたい。

③ 水使用量

今年度も目標値に対して **32.60%**増加になってしまった。3月～6月頃にかけて水道管の老朽化により水漏れが複数個所で発生したため、水使用量が増加となってしまった。今後も洗車時の細目な止水や社員全員の節水意識を徹底し、水使用量削減に継続して取り組んでいきたい。

④ エコ整備

今年度の目標台数 **95台**に対し、**98台**で達成出来た。またエンジン洗浄の目標 **0台**に対し、実績も **0台**となってしまった。顧客がエンジン洗浄の料金を高額であると考え、実績に至らなかった。その為、2021年1月よりエンジン洗浄より廉価で燃費改善に寄与する燃料添加剤を販売し、エンジン洗浄に代わるものとした。今後も社員全員でエコ整備の商品知識と合わせて技術力を向上させ、より一層のお客様への働きかけにより、目標を達成出来るように努めたい。

⑤ 化学物質の管理

化学物質の把握に関しては、購入業者からの納品書と製品安全データシート（SDS）を基に、該当する購入品毎に数量を合計してキログラム単位に換算し、含有するP R T R該当物質を個別に集計して把握している。

前年度実績値の1%減を今年度の目標値とし、化学物質毎及び総使用量について削減を目指した。今年度については、特装車で使用する弊社製作部品で塗装を必要とするものはほぼ前年度と同様であったが、特殊な塗料は使用しなかったため、減少となった化学物質が多数を占めた。総使用量は微減であった。今後もしっかりと管理を行い、削減に努めたい。

(3) 社員の意識高揚

環境理念、環境行動方針を会議、朝礼時に確認することにより、意識を高めるよう努める。継続することにより、意識高揚を図る。

◆環境関連法規への違反、訴訟等の有無

(1) 適用となる主な環境関連法規

主な適用法規等	該当する活動	遵守状況
環境基本法	事業活動全般	—
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の排出適正処理	遵守
消防法	消火設備の設置、維持管理、危険物の取扱と保管（指定数量の1／5未満で管理）	遵守
地球温暖化対策法	事業活動全般	遵守
使用済自動車の再資源化に関する法律	使用済自動車の適正な処理	遵守

(2) 違反、訴訟等

環境関連法規への違反や訴訟はありません。なお、関係当局より違反等の指摘は、過去3年間ありません。法規の遵守状況をチェックし、問題がありません。

以上

代表者による全体の評価と見直し結果

(システムの有効性、取組の適切性の確認)

実施日 2024年9月6日

見直しに必要な情報 (環境管理責任者のコメント・提案)	変更の必要性の有無・指示事項 (代表者)
[環境方針] 環境方針は最終的に目指すところであり、引き続きそれに向けて日々の活動を行って行く。また定期的に環境方針内容の確認を実施し、意識高揚を図ることとする。	[環境方針] 2012年6月29日に策定。 2022年8月29日改定。環境行動方針にP R T R対象の化学物質の使用量・削減の推進を追加。 変更の必要性： 有 無
[環境目標・環境活動計画] - 二酸化炭素総排出量については減少となった。ガソリンの使用量に関しては削減できたが、軽油の使用量に関しては増加になってしまった。電力及び灯油の使用量についても削減できた。今後も怠ることなく社員の節電意識を高め、使用量の削減に努めたい。灯油については新規購入が無かったが、引き続きストーブやスチーム洗浄機の使用管理を行っていききたい。 - 廃棄物に関しても一般廃棄物及び産業廃棄物に関しても削減できた。今後も4Sを推進し、工場内外を整理 整頓 清掃を社員全員で行って行きたいと思う。 - 今年度も水使用量は増加となってしまった。今年度は、水道管の老朽化が多数の場所で発生したのが原因だった。又今後も、凍結対策として、-3度以下となる日は必ず水道元栓を閉めることを徹底する。今後も社員全員で節水意識を高め、削減出来るように努めたい。 - エコ整備に関しては目標台数を達成できた。エンジン洗浄に関しては未達成であった。今後も目標達成に向け全従業員で努力する。 - 化学物質については目標値に対し、概ね削減出来た。次年度以降もしっかりと管理し、削減に努めたい。	[環境目標・環境活動計画] - 二酸化炭素排出量については、電力による部分は今回と同じく0ベースで今後も推移していくこととなるが、それに甘んじることなく、社員全員で無駄な電力消費が無いように努めると共に、ガソリン・軽油・灯油による部分も、しっかりと管理して削減出来るよう取り組みたい。 - 化学物質については、化学物質を含まない、あるいは低含有の製品への置換を研究したい。 - 管理対象の要素の多くで目標を達成出来たが、次年度以降も引き続き目標達成出来るよう社員全員で環境に対する意識を高め、努力を続けていく。 変更の必要性： 有 無
[その他の環境経営システムの実施状況] - 社員一人ひとりが、環境への意識をより一層高め、環境負荷を削減出来るように、教育と指導を実施する。 - 感染症拡大防止については2024年5月より平常時に戻したが、引き続き以下を順守する。 - 手洗い並びにアルコール消毒の徹底 - 咳エチケットの徹底（マスク等の着用） - 定期的な室内の換気（朝昼夕） - 毎朝晩の体温測定（各自） - 出社時及び昼食後のアルコールチェック	[環境経営システムの各要素] 前年度に引き続き、前月の環境負荷の結果につき幹部で評価を行い、その結果を朝礼や会議で担当者より全員に伝え、情報を共有すると共に、PDCAの取り組みに生かすこととする。 変更の必要性： 有 無